

事業の背景・目的

港区立有栖川宮記念公園は、江戸時代武家屋敷であった場所で、昭和9年に公園として開園した歴史ある公園である。

この公園の池では、従来よりウシガエル、アカミミガメ、アメリカザリガニ等の外来種が生息し、最近ブルーギル等の生息も報告された。淡水植物は確認できておらず、アカミミガメ等の食害により、水草等の生育が難しくなっているものと考えられる。

池本来の自然生態系の回復を図るために、現状の生物相の実態を調査、把握した上で、浚渫工事と合わせて、池の生態系に悪影響を及ぼしている外来生物を駆除する。また、その結果をモニタリングし、在来生物の生息環境の向上と今後の池の管理について検討を行うことが必要である。

事業の内容

令和4年度

事業① 水生生物調査事業
池の水生生物の生息状況の現状を把握するため、夏季及び冬季の池の浚渫時に、生物調査を行い、今後の池の管理について検討する。

事業② 外来生物駆除事業
池の生態系の再生、生物多様性の向上を目指し、特定外来生物ウシガエル、オオタナゴ、ブルーギル、オオクチバス、特定外来生物指定検討種アカミミガメ、アメリカザリガニ、その他外来生物の駆除を行う。

事業③ 普及啓発事業
在来生物の生息環境の保全と外来種駆除の必要性を普及、啓発する。
・周知板の設置、チラシの配布
・地域住民を対象とした現地勉強会の開催
・駆除作業へのボランティアの参画



得られた成果

(池の生態系の回復)水生生物の生息状況の調査を行った。夏季にトラップや網を用いた調査、冬季の浚渫に伴う水抜き時に池にいる生きものを捕獲、種及び個体数を記録し今後の池の管理等について検討を行った。また、調査時に捕獲した特定外来生物をはじめとする生態系に悪影響を及ぼしている外来生物を選別し、駆除等を行った。令和5年度のモニタリング及び令和10年に予定している生物現況調査において、事業の効果を検証する。

(地域住民の生物多様性についての意識向上)調査の進捗や成果を周知・参画の呼びかけ・調査成果の報告としてチラシの配布を3回、ホームページによる情報提供、調査イベントでの小学生と保護者を対象とした見学会の開催(20組)、啓発チラシの配布、採取した生物を展示するミニ水族館の設置、駆除作業へのボランティアの受入れ(12名)、テレビニュースでの取り上げ、区広報番組での放送(4月予定)などにより、在来生物の生息環境の保全と外来種防除の必要性を普及、啓発した。